

## 主なる神とその御業を喜び、祝う

タイトルには「賛歌、歌、安息日（のため）に」とあるが、詩編 92 編は主なる神を喜び、祝うために設定された安息日（土曜日）に相応しい賛歌である。詩編 92:13-16 は敬老感謝礼拝で数回取り上げたことがあるが、この個所だけでなく、今一度詩編 92 編全体を味わってみたい。

詩は「いかに楽しいことでしょうか」「良きかな！」で始まる。苦難や困難に遭遇するのが人生ではあるが、神にあってそれは「良いもの」であると思慮するであろうか？先日ある高校生の証で好きな聖句として、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。それこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」が挙げられた。しかも、私がかつて説教でふれたように、I テサロニケ 5:18 の後半をカットしないで引用してくれた。そこに「キリスト・イエスにおいて」と、喜び、祈り、感謝の根拠が示されているからである。「いつも喜ぶこと、絶えず祈ること、どんなことにも感謝すること」はこの詩では総合的に、端的に「良いこと」（新共同訳では「楽しいこと」）であると言っている。不安、苦しみ、悲しみが拡がる時、主なる神の慈しみとまことによって自分の生を「良いこと」と言えるであろうか？黙想してみよう。神は良きかな、神に対して良きかな、自分もまた良きかな、精神的にも、倫理的にも、美学的にも良きかな（美しい！）である。

1. 「良きこと」の内容 (2~4 節) : ①主なる神ヤハウェに感謝を捧げることは良きこと。②あなたの名、いと高き神（エルヨーン）に賛歌を歌うこと。タイトルの「賛歌」と同じ言葉、原意は「枝を下す」で、歌う、音楽を演奏する、踊るを意味するようになる）も良きこと。③朝にあなた（神）の慈愛（へセド）を、毎晩、あなたの信実（アーメン）宣言することも良きこと。

その際に、器楽が演奏され、十弦琴、豎琴（これに「ハーモニーの響きのある」という形容詞が付いている）、琴の調べに合わせて歌われていた。いずれも弦楽器である。これらが「良きこと」なのである。ここから、人間の生の目的は神賛美であり、人間の生は良きことであるという思いに繋がるだろうか？！

### 2. 御業を喜び祝う (5 節~6 節)

喜び、祝う内容が、主なる神ご自身の本性から神のみ業に移っているが、ムードは明るく、喜びの音色が継続している。呼び掛けはここでも「主」（ヤハウェ）である。4 節までは信仰者自身の姿、態度が主であったが、5 節は主なる神が「させてくださる」に変わり、喜び祝う内容が主ご自身の慈愛と信実から主なる神の「御業」（単数形）「御手の

業」(複数形)に変化している。神の本質・人格が慈愛と信実であるからそのみ業も良いのであり、そのみ業が良いので、まさに、その本質も慈愛と信実なのである。5節後半の「喜び歌います」は強意と継続を現わす動詞形で、勝利の喜びで叫ぶことを意味する言葉である。その御業は「大きく」、「ヤハウェ」の御業(複数形)、あなたの思い(御計らい 複数形)は非常に「深い」と語る。「御手の業」とは天地万物の創造と保持の働きと歴史における救済の両方を意味しているのであろう。

7節は、神の御業と御手の働きの大きさと深さを、愚かな者は知り、悟ろうとしないと真理の裏面に言及しており、8節以下の神に逆らう者の儂さへの移行の役割を持っている。

### 3. 神に逆らう者の滅び(8~12節)

神賛美の裏側には、外見上は栄えているように見える神に逆らうあの邪悪な者の姿が見えるが、彼ら彼女らは一時的に「野の草のように」「花を咲かせるように」見えるが永遠の相の下では「滅び」である。9節は基本的信仰告白である。「ヤハウェよ、あなたはとこしえにいと高いお方である。」10節はこの告白をさらに展開し、「なぜなら、ヤハウェよ、見よ、あなたに敵対する者たち、不正を働く者たちは滅び、散らされるであろうから」と説明する。

11~12節は5~7節とは逆に、視点を敵対する者たちから主なる神を信じる「わたし」に移している。

### 4. 神に従う人の繁栄(13~15節)

神に従う人は根を水源に伸ばすナツメヤシのように茂り、実をならせ、レバノンの杉のように堂々と聳え立つと形容されている。神こそ水源である。また、水源に根を伸ばすという形容が更に、エルサレムの神殿の主の家にあるいはわたしたちの神の庭に植えられた者たちは生い茂るであろうという表現で言い表される。年老いて白髪になっても、髪の毛が霜のように白い)なお実を結び、命に溢れ、生き生きとしている。(脂があって、繁るであろう)

### 5. 宣教と頌栄(16節)

最後は、「私は宣べ伝えるであろう」で終わる。この不定形がどこに掛っているか? 前節の生き生きと生い茂っているのは、「ヤハウェは真っすぐに立ち、私の岩、彼には不義は存在しない」ことを宣言するためにということであろうか。「宣言する」が3節と16節に2回登場している。私たちは誰を、何を宣言するだろうか。主なる神とその恵みを宣言しよう。